



ギャンブルに問題がある人の 入所回復施設の運営を支援

東京都遊技業協同組合 「認定NPO法人 ワンダーポートへの寄付」事業



東京都遊技業協同組合
理事長
阿部恭久さん



「認定NPO法人ワンダーポート」への助成金贈呈式

ギャンブルに問題を抱えた人の 支援活動を展開する団体に助成金

近年、いわゆる「ギャンブル依存症」という概念が一般にも認知されるようになり、「のめり込み」に対する社会的な関心も高まっている。先頃、成立した「特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律（IR推進法）」においても、ギャンブル依存症対策が急務とされている。ホール業界においては、かねてからパチンコ依存問題の相談機関である「認定NPO法人リカバリーサポート・ネットワーク」への支援や、ホールにおける啓発ポスターの掲示などを通じて依存問題に取り組んできた。

また、パチンコ・パチスロ産業21世紀会の下に設立された遊技産業活性化委員会が制定した「パチンコ店における依存（のめり込み）問題対応ガイドライン」に基づき、2014年11月には全日本遊技事業協同組合連合会理事会でのめり込み問題への対応が決議され、折り込みチラシへのめり込み防止の共通標語を記載する施策などを実施してきた。

業界におけるこのような取り組みは、社会的な信頼を獲得していくためにも必要かつ重要であるが、東京都遊技業協同組合（以下、都遊協）でも社会貢献活動の一環として、早くからこの問題に取り組んできた。都遊協では2009年度から継続して、毎年、横浜市瀬谷区に拠点を置いてギャンブルに問題を抱えた人への支援活動を続ける「認定NPO法人ワンダーポート」（以下、ワンダーポート）に対して100万円の助成を行っているが、昨年も同額の助成を実施した。これ



入所者によるグループセラピー



「認定NPO法人ワンダーポート」では、セミナーやフォーラムを定期的で開催

までの助成の累計額は800万円となった。都遊協では特段の理由がない限り、今後も助成を継続していく予定だという。

社会的な関心が高まる依存問題に 早くから取り組んできた都遊協

都遊協では、2002年当時、マスコミや行政当局から「依存症」や「のめり込み」といったキーワードによる指摘を受け、何らかの対策が必要と考え、手探りながら、その方策を検討していた。

その頃、青年部会が中心となり、早稲田大学との産学共同研究事業を開始したが、早稲田大学サービスマネジメント講座の加藤諦三先生の「中毒の心理」という講義で、「依存の問題は、依存してしまう対象にあるのではない」ということを学んだことをきっかけに準備を進め、2005年、全国に先駆けて「パチンコ・パチスロ依存症予防対策ホームページ」を開設した。このホームページは2009年に全日遊連の支援を受けたリカバリーサポート・ネットワークが設立されたことに伴い、一本化するべく発展的に解消されたが、予防施策が整ってきたため、次いで回復施策の検討を始めることにした。その中で、わが国初のギャンブルに問題がある人の回復支援施設として2000年に設立されたワンダーポートを視察し、入所者個別の背景に配慮した支援活動が認められたことから、都遊協として支援を開始したものである。

ワンダーポートは、全国から利用者を受け入れており、依存という行動を病気として捉えるのではなく、各人の人生の課題や生活の課題として捉え、それぞれの課題に合わせた支援をしていくことが必要だ。そのため個別相談、グループセラピー、運動、レクリエーションといったカリキュラムを提供するほか、電話や面談による家族相談、就労に向けた資格取得支援、関係機関とのネットワークによる障がいのある人への支援、社会啓発事業、フォーラムの開催などにも取り組んでいる。

このほかにも都遊協では、昨年発生した熊本地震の義援金として1,000万円を寄付したり、青少年の健全育成を支援する団体への助成金交付などを行っている。